

## 令和3年度(2021年度)第2回熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会 議事録要旨

1 日時 令和3年(2021年)8月3日(火曜日)10時00分から11時15分まで

2 場所 熊本市役所 議会棟2階 議運・理事会室

3 出席者 熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会委員(9名)

篠原 亮太 委員長

中田 晴彦 副委員長

小野寺 武治 委員

岩佐 弘子 委員

宮園 由紀代 委員

濱田 麻里 委員

上野 誠実 委員

西原 治雄 委員

山田 幸一 委員

事務局(8名)

三島 健一 環境局長

村上 慎一 資源循環部長

下錦田 英夫 廃棄物計画課長

千原 直樹 ごみ減量推進課長

後藤 滋 環境施設課長

緒方 宏行 浄化対策課長

菅本 康博 ごみ減量推進課事業ごみ対策室長

中村 勝 廃棄物計画課副課長

4 欠席者(なし)

5 次第

(1) 開会

環境局長あいさつ

委員長あいさつ

(2) 議事

【議題】 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子案について

(3) 閉会

## 6 配布資料

### 次第

一般廃棄物処理基本計画策定スケジュール

資料1 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子（案）

熊本市上下水道事業 経営戦略

浄化槽処理促進区域の位置及び区域を示した図面

## 開会

### 【事務局挨拶】

三島環境局長挨拶

### 【委員長あいさつ】

一般廃棄物の処理問題は避けては通れない重要な問題で、私たち、市民生活の中で、循環型社会をつくる1番大事なところ。実際に何をやるかを、この委員会の中で明確にしていかなければならず、実行可能な計画を作っていくということと、将来の夢をその中に盛り込んでいくことが大事。

私たちは長い間、ごみ問題、廃棄物処理については、市民共々みんな悩んできた。

振り返ると、熊本市は、どちらかという与环境問題に関心があり、熱心に取り組んできたという実績がある。そういった意味で非常にうまくいっているように見えるが、実際の現場では、市民の皆さんの努力によって成り立っている。これをよく理解して、市民の協力なくしては、ごみ行政は成り立たないということをしっかり、行政の皆さん、この委員会の中でもしっかり共通認識を持っていただきたい。ということは、市民に理解される内容でないといけない。そして市民とともに行政と一緒にやっていかないと、この計画はうまくつukれない。ぜひとも、すばらしいものを皆さんでつくっていただけるように、御協力のほどよろしく願います。

### 【副委員長自己紹介】

中田副委員長自己紹介

(三島環境局長、公務のため退席)

### 【定足数報告】

事務局

熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会運営要綱第6条第2項の規定により、本委員会の開催のための定足数を満たしていることを報告する。

### 【配布資料の確認】

事務局より説明

### 【スケジュール説明】

前回第1回及び今回第2回の御審議を踏まえて、骨子案の事務局案を修正し、委員長、副委員長に御確認をいただき、市の方針を決定する場である政策会議に諮り、第3回委員会にお

示しをすると考えている。さらに、次回以降の審議内容を取り入れた上で、素案を確定していくこととなる。

## 議事

議題 1、熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子案について事務局から提案されたので、これについて説明いただき、そのあと皆さんから御質問、御意見をいただきたい。

下錦田 廃棄物計画課長

(資料 1 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子(案)について説明)

緒方 浄化対策課長

(資料 1 熊本市一般廃棄物処理基本計画骨子(案)(生活排水処理基本計画)について説明)

### 【前回委員会の下水道の老朽化状況と更新するための予算状況の回答】

上下水道局計画調整課 上崎技術主幹

(資料「熊本市上下水道事業 経営戦略」について)熊本市の上下水道事業における、約10年程度の経営方針やビジョンを定めた経営戦略であり、ホームページ等でも公開している資料で、ご質問の施設の老朽化についての部分を抜粋したもの。

老朽化の現状として、熊本市でも下水道の老朽化は問題になっている。これは、社会インフラ全体に言えることで、上下水道の他に、道路、河川トンネル、橋、電気ガス、こういったもの全てが老朽化を迎えるところで、熊本市にとどまらず日本全国的に問題となっている。熊本市において、資料32ページ下の棒グラフが下水道の状況。昭和50年度後半から平成にかけて、高度経済成長に伴い敷設してきた下水道管が経年していき、一斉に老朽化し標準耐用年数を迎える状況が来る。この対応が重要となってきている。

これについては上下水道局においてストックマネジメント計画を立てており、ストック、既存施設、今あるものをうまくマネジメントして長寿命化し、効率的に維持管理をしながら、既存ストックをうまく使っていくものである。

年度にもよるが、予算としては平均して年間20億から25億程度の予算で、管路や施設の改築更新後は維持管理を行っているところ。管路の高知改築更新の手法としては、今ある敷設が古い管路を新しい管路に取り替えるというのがベストだが、道路の下に回っており、そういった作業に時間とお金がかかる場合は管更生工事として、今ある環境の中にまた新しい管を入れて、その間を熱で固めたり、光で固めたり二重にするなど、更新していくという手法が主な手法となっている。今あるものを一斉に老朽化させるわけではなく、平準化させ

ながらうまく維持管理をしていくということを上下水道局で取り組んでいるところである。

篠原 委員長

この生活排水は、ごみの一般廃棄物の一部として取上げてあるが、本当は重要な項目だと認識ください。熊本は環境都市、水環境都市、文化都市と言われても、この単独浄化槽、くみ取りがまだあるということが非常に大きな問題点。これはどんな都市でも残っていて、100%なくなっていない。まだ途上、過渡期にあるが、もう大体先が見えてきている。実際、皆さんの住宅地にくみ取り車がやってくるため、匂いなど衛生的な問題がある。観光都市でもある熊本を、川をきれいにしていくためには浄化槽で生活排水をきちっと処理しなければならない。

単独浄化槽や合併浄化槽について、簡単に説明する。少し専門的な話をすると、し尿を川に流すことは今、日本は一切やっていない。キャンプ場など少しはあるかもしれないがほとんどない。それは浄化槽という形をとっている。単独浄化槽と合併浄化槽のどこが違うかというと、単独浄化槽は、し尿以外の風呂の水、厨房の水、洗濯水は全部そのまま川に流しているということ。これはもう由々しきことだと思う。合併浄化槽というのは、全ての家庭から出ている水を下水ではなく自分の家で、水処理する。ミニミニの下水、公共下水道処理場のようなものがある。合併浄化槽からは、一応その基準となる濃度にして川に出している。そのため単独浄化槽をなくさない限り永遠に川はきれいにならない。この中で、接続促進と転換促進という言葉が出てくる。私はそれがどういう政策であるか、楽しみにしている。これを進めていかないと、熊本は、水環境都市とは言えないと思う。

岩佐 委員

農業集落排水施設があり、少し数値が増えている。

排水処理計画の件も、増えているようだが、現在、熊本市には何か所あるのか。

以前は漁業集落の施設もあったと思うが、そちらのほうはいつ無くなったのか、合わせて伺いたい。

緒方 浄化対策課長

農業集落排水施設は、北区植木に2か所、城南町に2か所、計4か所ある。

漁業集落排水施設については、いつ無くなったのか把握していない。

村上 資源循環部長

お時間をいただき、調べさせていただく。

篠原 委員長

よろしく願います。

経過と実情について、どのように展開されていたか、お願いします。

濱田 委員

くみ取り便槽の件だが、私どもが不動産関係の仕事をしており、貸家の中にくみ取り式の便槽がまだ残っている。その地域はすでに上下水道も整備されている地域だが、市の施策時に家主さんが、上下水道に転換する手続きを逃してしまった。その後、転換を検討したが、費用が500万円程度発生するということで、結局貸家を取り壊した。この方のように、したくても出来ない方がいると思う。市は今後、補助金制度などを検討できないのか伺う。

緒方 浄化対策課長

くみ取り・単独から合併浄化槽に転換する工事費について、住居については、補助金制度が昭和61年度から今現在もある。ただ、アパート・貸家など、または、事業所に対して補助金制度がないというのが現状。

篠原 委員長

それから、下水道接続の件はよろしいか。

濱田 委員

その地域は熊本市南区島町で下水道が整備されている地域。手続をしたいと考えた際、費用がかなり発生するため断念され、貸家を取壊したという経緯である。そのような事業所や家主さんがまだいるのではと思い、お伺いした。

緒方 浄化対策課長

(下水道接続についての)問合せはあるが、補助金は厳しい状況。また、その地域は下水道、計画区域なのか、すでに整備済みなのか、あるいは、今後近いうちに整備するのかで、ご相談の回答が変わってくる。下水道接続に関しての補助金は、無いのが現状。

篠原 委員長

つまり、下水道整備が済んでいても、自己負担で接続するということか。

緒方 浄化対策課長

受益者負担になる。

篠原 委員長

そういう理由で、なかなか進まないという事。便槽の改築、改修工事等も含めて、多額の費用負担が発生する、それが普及出来ない転換出来ない大きな理由。

山田 委員

下水の料金について疑問があり、お伺いしたい。地下水を汲み上げて使用し、下水に排水する場合は、世帯数で徴収されると聞いている。一般に上水道を使用している場合は、上水料金の8割か9割程度の金額になり、例えば1万円以上の上水料金であれば、9,000円程度になる。単独浄化槽を使用の場合、月額2,600円程度。1年間で10万円程度、下水道代が高くなる。接続するために数十万円費用負担し、下水道を利用すると負担が大きく接続しないという方もいるのでは。そうだから接続しないという方が結構いらっしゃる。ご高齢の方は尚更だと思う。基本的に利用料金算出を全部一律にする。世帯の人数で料金を決めると平等になると思う。使用量で算出すると、地下水を利用している方と、上水道を利用している方とで差が出てくる。算出方法を若干検討いただきたい。

上下水道局計画調整課 上崎技術主幹

事務局ではないが、お話しさせていただきたい。

篠原 委員長

特別に許可する。

上下水道局計画調整課 上崎技術主幹

ご意見いただいたとおり、上水を利用の方は上水道料金を基に、下水道料金を算出しており、地下水を利用の方は、世帯数について料金を設定している。

このことについては、御指摘のとおり。頂いたご意見を持ち帰り、次回、事務局を通して回答したい。

篠原 委員長

よろしく願います。

生活排水に意見が偏っているので、一般廃棄物の質問に移りたい。

西原 委員

基本方針ですが、具体的に教えてください。

まず焼却場がどのくらいの能力なのか。植木と合併した中で、5年10年先、東部・西部環境工場で、処理能力が対応可能かどうか。それから東部環境工場と埋立処理施設の稼働終了時期について、どのような計画になっているのか。

家庭から出るごみを、焼却と埋立ごみを処理できるのか。

下錦田 廃棄物計画課長

6 ページに目指す姿に向けた、基本方針を 3 つ掲げている。

基本方針 1 で、ごみを発生させない、多様な主体と連携して取り組む 3R、こちらは主に家庭系のごみ対策が主体になる。次は基本方針 2、環境負荷の少ない、適正かつ安定的なごみ処理体制の構築、こちらで、委員がご懸念された、適正な中間処理、最終処分体制ができるのかということだと思う。この中間処理焼却、あるいはその埋立ごみについては、この計画期間を当然、問題ないものにするが、その先も委員のご意見のとおり、この期間内に見据え、例えば延命化の手続、措置、工事など、そういったものを検討してまいりたい。

後藤 環境施設課長

廃棄物計画課からの回答に、少し補足する。現在、東部環境工場については、延命化の方針により進めている。耐用年数については、令和 6 年に耐用年数を迎える状況。これからその施設の延命化の整備内容を、現在検討中で 10 年から 15 年程度の延命化を今から図るところ。扇田環境センターの埋立施設だが、令和 30 年まで埋立てができる状況。

山田 委員

国と県における成果指標と目標値というのがあるが、市は国の削減率に合わせて、県に合わせていない。なぜ国の削減率設定を合わせたのか。その理由があれば教えていただきたい。

下錦田 廃棄物計画課長

11 ページの国と県の計画について、まず国の計画期間が 10 年で、県が 7 年という違いがある。あと削減量について、1 人 1 日当たりのごみ処理量が県は 5%、国はごみ排出量が 8%、1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量が 13%であるため、より削減率の大きい国の目標値を、参考にしたということである。

岩佐 委員

先程、環境施設課の方がお答えの中の東部環境工場の延命化工事の件。以前災害が発生したとき、東部環境工場は稼働しない期間に廃棄物の処理が出来ない状態にあり、また、熊本市だけではなく周辺の市町村も被災していた。道路上など様々な場所にごみが置き去りにされた期間が長かったということ踏まえたうえでの、延命化か。現状で 1 日の処理能力が東部環境工場で 600 t、西部環境工場が 280 t。熊本地震を上回るくらいのごみが出たときのことを考えても、やはり同じ程度の規模の延命の工事をされるということか。

後藤 環境施設課長

ご発言のとおり、東部環境工場は 600t の処理能力がある。能力の増加は現時点では考えていない。実際設置する上で、災害廃棄物を処理できることを見込んでの能力でもある。人口減少等もあり、災害ごみも見込める程度の能力であるため、現時点で処理能力を増やすとい

うことは考えていない。

篠原 委員長

災害のときには広域処理ということで、他都市に依頼することになっているのですね。

村上 資源循環部長

災害のときは、いろいろな状況が考えられる。他都市の環境工場や、民間も含めたネットワークを活用させていただき、取り組んでいるところ。

宮園 委員

熊本消費者協会の宮園です。基本方針1・2・3とあるが、施策の数が随分違う。どれも大事なことだと思うので、2と3の施策もう少し増やしていただきたい。基本方針3の災害の部分は、まだ記憶に新しく、非常に市民の教育がなくてなかった。テレビなど、市民のごみ出しマナーの悪さが気になった。市民がやるべきことを考えていただけたらと思う。環境総合計画の中にも基本計画があるが、そこで廃棄物関係の取組が幾つも挙げられている。環境総合計画にあるフロンのことなど、整合性があるほうが市民としても分かりやすいのではと思う。

下錦田 廃棄物計画課長

まず環境総合計画と、廃棄物処理基本計画の関係につきましてお答えする。

資料1ページ、上位計画に第7次総合計画、熊本市環境総合計画とその下にご議論中の廃棄物処理基本計画という位置づけであるので、環境総合計画で成果を出そうとするものの個別計画とお考えいただきたい。

各基本方針に施策があり、施策ごとに事業がついてくるような形になる。ご指摘のようにバランスが悪いということについては、各施策に事業をつけたところで、ご確認いただければと思う。

篠原 委員長

災害時の廃棄物処理については、熊本県の災害廃棄物処理計画の中に、詳しく記載されているので、参考になると思う。

西原 委員

繰り返しになるが、基本方針災害時の強靱な災害廃棄物処理体制を構築するとあるが、具体的に伺いたい。基本方針の3の中に、施設災害時における連携体制の強化とある。災害協定を各企業、団体と結ばれているが、どの分野をどの協定の人とという、すみ分けのような具体的な計画があるか。

下 錦田 廃棄物計画課長

処理体制について、民間事業者との連携があり、そこに基づいた協定がある。私どもが民間に委託するときは、災害のための予備車のお願いをしている。これまでも熊本地震を始め、人吉の災害などで、ご協力いただいております、かなり強い体制は出来ていると思っている。

篠原 委員長

中田先生、プラスチック関係はこれでよろしいか。

今後計画の中に盛り込んでほしいというのがありましたら、ご意見いただきたい。

中田 委員

プラスチックは、次回第3回で話し合う予定ではないか。

篠原 委員長

今のうちに課題を出していただきたい。

中田 委員

一つだけ、研究している立場から意見を言わせていただく。ごみもだが、小さなプラスチックの環境排出というのが問題になっている。例えば年間に人は大気経由でプラスチックを吸い込む、最大で3000万個、1人の暴露量として1番多いという試算もある。食品よりもはるかに多い。そのプラスチックがどこから来ているのかというと、例えば、屋根のないところでの廃棄物処分場、日本は割と管理されているほうだと思うが、途上国だとごみそのままになっていたり、そこで処理をしたりする。それは太陽光を長期間浴びた劣化しやすい状態のものの処理、そういうところが排出元になっている。

処理業者は屋根つき・ある程度クローズドな空間で処理ができる、そういう体制があれば、もう少し環境負荷は減らせるのではと思う。

もうひとつ、前回欠席したが、市民1人1日当たりのごみ排出量の目標値が高くて、達成困難な項目がたくさんあるということであった。

今回、国の削減率を指標に熊本市は減らしていくということだが、人口が減り、ごみの量が減るだろうという4ページの折れ線グラフと棒グラフの施策もあるように、減っていくだろうと思う一方で、世帯数は増え続けていく傾向にある。だから人口が減っても、ごみの量はそんなに減るのだろうかと思う。

目標を掲げたが、達成困難でしたというような結論になってしまわないか、そうなってしまうと市民の方々の印象も悪くなるし、行政の方も、また駄目だったということになるので、削減率は、この数値で、妥当なのかどうか。実際、実現可能な範囲なのかどうか。その辺りの確認をもう一度されたほうがいいのではと思う。

篠原 委員長

実行可能な計画にするためには、そういうことも必要だろうと思う。

下錦田 廃棄物計画課長

成果指標の目標値に関しては、1年ごとに状況を確認してまいりたい。随時確認するという  
こと。5年、10年計画の5年目に中間年度を設け、達成が困難なものについては、達成が  
出来るよう、施策を見直すというところで考えている。委員の皆様にご心配をおかけしない  
よう取り組んでいくので、よろしく願います。

篠原 委員長

目指す姿というのが1案から4案があるが、この委員会の中で、ある程度決定すべきでは  
ないかと思う。事務局、そういう意図か。

下錦田 廃棄物計画課長

事前にご説明に伺ったときにも、文章が長いのではないかと、ご意見を頂いた。そういう  
ところも含めて、目指す姿のご意見をいただきたい。よろしく願います。

篠原 委員長

早めに目指す姿を決めないと、この計画自身が浮いてしまう。

この委員会で決めてもいいと思うが、いかがか。

何か皆さんからご意見いただけるか。

岩佐 委員

冒頭挨拶のときに言われたように、夢のあるような言葉、思いが伝わるといいと思う。

「共に取組み共につくる」というのは良くわからないので、「未来へつなぐ循環都市」とい  
うように短いフレーズで心に響くような、言葉があればと思う。

篠原 委員長

短い言葉での目指す姿が出たが、皆さんの意見もお聞かせいただきたい。

宮園 委員

また環境総合基本計画に戻りますが、そちらでも「未来をつなぐ」という言葉が入っていて、  
「つなぐ」という言葉がとてもいいと思っているので、案1の「未来へつなぐ」という言葉  
が入ったものもいいと思う。あとは、あまり長い漢字をたくさん使わないほうが、皆さんの  
心にすっと入るような気がする。

篠原 委員長

幾つか案が出たが、この案をまとめて今日の会を閉会としたいと思うので、もう少し時間を下さい。

濱田 委員

皆さんの意見をまとめて第1案で、「ともに取り組み、ともにつくる」を「みんなでつくろう。未来へつなぐ循環型都市」ではどうか。

篠原 委員長

少し具体的な案が出た。濱田委員、もう一度お願いする。

濱田 委員

「みんなでつくろう。未来へつなぐ循環型都市くまもと」

篠原 委員長

みんなという言葉が入った。

中田 委員

なかなか難しい問題。1から4は市の方がいろいろ頭を悩ませながら考えられた案だと思うので、理由を聞かせていただければと思う。

篠原 委員長

課長何か意見はあるか。

下錦田 廃棄物計画課長

中田委員からご配慮いただいたが、これが良いというのは特にはない。キーワードや、前回、委員の皆様から出た語句のフレーズなどを参考にした。

篠原 委員長

さっき濱田委員から出た、「環境負荷の少ない」というところと「循環型社会」というのは、同じような内容。だから「環境負荷の少ない」というのはなくして「循環型都市くまもと」でもいいと思うが。事務局、濱田委員からの「みんなでつくろう、未来につなぐ循環都市くまもと」でいかがか。

下錦田 廃棄物計画課長

皆様の合意がいただければ良いと思う。

篠原 委員長

一応これで決定ということで、もう1度事務局で検討いただく。他にこれにかわるものがあるならば、理由をつけていただき次回提示していただきたい。

廃棄物関係の意見が、あまり出ていないが、よろしいか。

計画内容ですが、今日の意見を入れてもう1度精査され、次回はかなり固まった内容が出てくると思う。

緒方 浄化対策課長

はじめのほうで、岩佐委員より生活排水の件、漁業集落排水の経緯をというご質問いただいたが、次回の委員会までに回答を用意する。

篠原 委員長

皆さんの意見がもう出ないということであれば、これで今回は終わりたいと思う。

あとは事務局に、お渡しする。

## 閉会

事務局

なお次回の開催は8月末を予定している。日程につきましては後日改めてご連絡をさせていただきます。

以上をもって第2回熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会を閉会する。